

授 業 科 目 名	幼児と表現	教 員 名	山本 辰典 佐々木 由喜子 (実務経験のある教員)	免許・資格 との 関 係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	必修
					保育士	
授 業 形 態	講義	担 当 形 態	オムニバス		こども音楽療育士	
科 目 番 号	F0I108	配 当 年 次	1年後期	卒 業 要 件	小幼コース	選択
単 位 数	2 単位				幼保コース	選択
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目					
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等	領域に関する専門的事項・表現					
一 般 目 標	幼児の表現の姿や、その発達を理解する。 身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。					
到 達 目 標	(1) 幼児の感性と表現について 1) 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。 2) 表現を生成する過程について理解している。 3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 (2) 様々な表現における基礎的な内容について 1) 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2) 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 3) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 の 概 要	この授業では、領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境などの専門的事項についての知識・技能、表現力を身につける。 アクティブラーニングとして振り返り・個別の質疑応答、調査学習、グループワーク、グループディスカッションを行う。					
履 修 条 件 ・ 注 意 事 項	動きやすい服装で参加すること。					
授 業 計 画	第1回：領域「表現」について、理解する。幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定型こども園教育・保育要領における幼児期に育む資質・能力、発達段階に応じた領域「表現」ねらい及び内容、「表現」と他領域との関連性について理解する。(目標(1)-1) (1)-2)) <佐々木> 第2回：発達段階を踏まえた子どもの音楽表現の表出について理解し、子どもの表現を共有・発展させる保育者の役割について保育計画の立案や指導法を通して理解する。(目標(1)-1) (2)-3) (2)-5)) <佐々木> 第3回：表現の意欲を育む幼児期の音楽表現について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をふまえて理解する。幼児の取り巻く環境における音や音楽を感受し、様々な表現活動を引き出す指導の方法について理解する。(目標(1)-2) (1)-3) (2)-2) (2)-3)) <佐々木> 第4回：身体を使った音楽表現やイメージをもった創造的な音楽表現の指導法について、子どもの心身の発達に合わせたねらいを明確にして理解する。(目標(2) -1) (2)-3) (2)-5)) <佐々木>					

	第5回：音を使った遊び、音楽あそび、楽器あそびの指導のねらいをふまえ、遊びと「音楽表現」の関連性について理解する。（目標(2)-1) (2)-3) (2)-5)）＜佐々木＞ 第6回：情報機器などを活用し、多様なこどものニーズに合わせた音楽表現の技法を理解する。子どもの発達段階における奏法や技法を知り、個別な表現活動から複数・集団の協同的な表現活動の指導のねらいについて理解する。（目標(2)-3) (2)-4) (2)-5)）＜佐々木＞ 第7回：様々な表現の技法を理解し、幼児の音楽活動の発展的な指導について理解する。また、保育活動の記録法や幼児理解に基づいた評価や評価について理解する。（目標(1)-1) (2)-5)）＜佐々木＞ 第8回：音楽表現と造形表現を融合させた表現活動の技法を理解する。様々な素材を使って、感情を描いたり、音・音楽の印象を絵に描いたりする技法を理解する。さらに、楽譜を色と形で表し絵譜をモチーフにした楽器や声を使った演奏の表現のねらいを理解する。（目標(1)-2) (1)-3) (2)-1)）＜佐々木・山本＞ 第9回：幼児教育において育みたい資質・能力、保育者の援助及び指導上の留意点を理解する。特に子どもの「思考力」、「判断力」、「表現力」を伸ばす方法を理解する。情報機器の活用について理解し、作品の写真を撮影して「作品集」を作成することで、データを保存し、活用する力をつける。玉ねぎの皮を使って染め遊びをする。顔料を糊で溶いて絵の具をつくる。自然物を使って色水や絵の具をつくることを体験的に理解する。クレヨンを溶かして再利用する。（目標(1)-1), (2)-2), (2)-3), (2)-5)）＜山本＞ 第10回：表現とは何か、造形表現とは何か理解する。思ったことや考えたことを形、色、材料で表現するのが造形表現であることを理解する。顔彩を使った表現について体験的に学ぶ。色を選ぶことで、色の効果や配色を楽しむことができることを実感する。また、何をどのように描くか自分で決めて表現することで、表現を生成する過程を体験する。（目標(1)-2), (2)-5)）＜山本＞ 第11回：表現者と受容者の関係を理解する。顔彩で描いた絵を見て、形や色、イメージについて語り合う。折り紙を使って切り絵をし、色画用紙を使って刀と鞘をつくり、その形や色、イメージについて語り合う。（目標(1)-2), (1)-3), (2)-1), (2)-3)）＜山本＞ 第12回：造形表現の発達段階について理解する。3～4人グループで「お店ごっこ」の商品と環境を製作する。（食べ物、帽子、装飾品、おもちゃ、ペットショップ、遊び場など）お互いの表現を受け止めながら、協働して製作し、豊かな表現につなげる。（目標(1)-1), (1)-2), (1)-3), (2)-1), (2)-2), (2)-3), (2)-4)）＜山本＞ 第13回：共同製作をすることで、どのような力を発揮することができたか、楽しさを生み出す要因について振り返る。3～4人グループで「お店ごっこ」の設営をし、作品を鑑賞しあう。（目標(1)-3), (2)-1), (2)-3), (2)-4), (2)-5)）＜山本＞ 第14回：水、草花、木の実、木の枝、木の葉、空気、光、野菜、木材に関する製作遊びについて調査してきたことを生かして作品を製作する。（目標(2)-2), (2)-3), (2)-5)）＜山本＞ 第15回：土粘土の特徴と道具、その扱いを理解する。（土粘土での遊びを数種類体験した後、思いつくものを製作することで、土粘土を扱う技能を高める。）（目標(2)-2), (2)-3), (2)-5)）＜山本＞ 定期試験
--	--

授業外学修時間の確保について	(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。) 音楽表現：発表などの準備や演奏等については、各自作成や練習の時間を確保すること。 造形表現：授業時間内に作品は完成しない。提出課題については、第1回授業で提示する。各自時間をかけて、納得できるものとなるよう追究して仕上げる。計画的に時間外学習をすすめてほしい。
学生に対する評価	音楽表現50点、造形表現50点の合計で評価する。 音楽表現：定期試験50%・発表20%・レポート等30% 発表、レポート・答案等へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・レポート等については、コメントを記載して返却する。 ・答案例を配布する。 造形表現：定期試験50%・作品集20%・小レポート20%・教材研究10% なお、作品・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・作品について授業中に話し合う機会を持つ。 ・答案例を配布する。
教材に関わる情報	テキスト：『改訂 幼児のための音楽教育』 教育芸術社 『表現者を育てるための保育内容「音楽表現」』教育情報出版 参考書：『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』 『保育所保育指針〈平成29年告示〉』
担当者からのメッセージ	音楽表現：基礎的演奏技能については、他の演習等での基礎力をつけ、個別練習やオフィスアワーなどを活用して実践的技能を向上させておくこと。 造形表現：事前に学生準備物を示すので、忘れず準備すること。道具等の購入場所が分からない場合は担当教員に相談すること。
オフィスアワー	音楽表現：授業の前後の時間（メール 等でアポイントを取ること） 造形表現：毎週火曜日 16:20～17:00
備考	担当教員の佐々木は、幼稚園・保育所におけるリトミック（音楽あそび）の指導経験を活かし、保育現場における音楽表現についての講義を行う。 担当教員の山本は、小学校・高校における教員（美術）としての経験や保育園や幼稚園での造形ワークショップの経験を活かし保育の現場における造形表現についての講義を行う。